

二〇一六年六月三日

溺れゐるかなぶんぶんを救出す
満天の星へ紛れし恋螢
手花火の終の玉とぞ惜しみけり
ほんのりと片頬染めて梅熟るる
夏帽子風に飛びさう展望台
園丁ら蚊とり線香ぶら下げて
東天に赤き火星や涼み台
夏汐の海へ傾く電車かな

二〇一六年六月二日

さくらんぼおちよぼ口して種を吐く
小気味よく胡瓜を刻むリズムかな
町中が白くなりたりたる更衣
バラアーチ潜りて異人館を訪ふ
国宝の池の水面のいと涼し

二〇一六年六月一日

一灯に火蛾狂ほしき無人駅
ウエルカムボード掲げし薔薇アーチ
池渡る風に睡蓮覚めにけり
集ひたる道真鼻肩夏期講座
長生きの金魚自慢す翁かな
藁屋根と玉垣結び蜘蛛の糸
SLの駆け抜けてゆく麦の秋

二〇一六年五月三二日

丸き背を鏡に正し更衣
万緑の谷戸を見下ろす一詩人

よし女	宏 虎	あさこ	菜 々	宏 虎	な お こ	有 香	豆 狸	宏 虎	う つ ぎ	三 刀	豆 狸	な お こ	宏 虎	泰 山	よし女	う つ ぎ	さ つ き	よし女	隆 松	う つ ぎ	隆 松
-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-------	-----	-----	-----	-------	-------	-----	-----	-------	-----

朗々と吟ずテノール声涼し
有り無しの風にこぼるる夏の萩
睡蓮や衛兵のごと鯉屯
ミサの鐘四方にこだます万緑裡
シテとワキ鳴き交はすごと暮

二〇一六年五月三〇日

群落の羊齒狂ほしき青嵐
ラムネ飲むカランコロンと玉鳴らし
万緑の山の胎内鍾乳洞
下闇の竈に鎮もる力石
緑風に髪なびかせて騎馬乙女

二〇一六年五月二九日

老幹の洞の中なる若葉かな
祝福のライスシャワーや薔薇アーチ
学舎より合唱聞こゆ薫風裡

二〇一六年五月二八日

雨意兆す紫陽花の毬落ち着かず
下闇に片寄せられし無縁墓
夕立を避ける軒なくビルばかり
石一つケルンに積みて山開き
若楓揺れて水面に触れんとす
襷々に夏霧残る深山晴
波涼し漁船行き交ふ瀬戸の海

毎日句会みのる選・二〇一六年六月五日

よう子	泰 山	ま ゆ	宏 虎	宏 虎	ま ゆ	菜 々	豆 狸	菜 々	ま ゆ	と も え	満 天	菜 々	と も え	た か 子	な お こ	明日香	豆 狸
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-------	-------	-------	-----	-----